

北海道胆振東部地震から5年を迎えて ～ 厚真町長メッセージ

平成30年北海道胆振東部地震から、5年が経ちました。

時を経てもお最愛のご家族やご友人を失われた方々の無念さは、決して尽きることがありません。同じ場所で同じ時を共有した私たちにも再びやり場のない深い悲しみが胸にこみあげてまいります。

全町民が被災者となったあの日から、被災者として様々な犠牲を払いながらも、懸命に努力を重ねてこられた町民の皆様に心から敬意とお見舞いを申し上げます。

全国各地からお寄せいただいた温かいご支援の輪は、この5年間でさらに広がり、私たち厚真町民を支えています。私たちはこれまでも現実から目を逸らすことなく、震災に埋もれた悲しいまちで終わらせない覚悟と再び輝きを取り戻す決意を心に刻んでまいりました。

この5年間、関係機関の皆さまにご協力をいただきながら、公共施設や農地の復旧をはじめ治山、砂防事業など、膨大な災害復旧事業に取り組んでまいりました。関係者のご尽力と町民の皆さんのご理解とご協力により、復旧事業は加速し、生産基盤や社会インフラの復旧は、本年度をもって一定の節目を迎えようとしています。一方、息の長い取り組みが必要な森林再生については、令和8年度までを重点取り組み期間として、取り組みをさらに加速させてまいります。また、町民の皆さまの心のサポートや宅地耐震化事業は、今後も完了まで丁寧に継続してまいります。

災害復旧事業が一定の節目を迎える中、本町は本格的な復興に向けた取り組みにも挑戦しています。新たな自然災害に備えての庁舎周辺整備や防災・減災対策をはじめ、エネルギーの自給自足、脱炭素を官・民・学で総合的に取り組んでいくカーボンニュートラル政策を展開し、着実に実装しながら復興の新たな骨格としてまいります。併せて最先端デジタル技術を取り込みながら次世代に向けた地域創生にチャレンジしてまいります。困難な道を選択しているように見えますが、犠牲になられた方々や艱難辛苦に耐えて導いてくださった先人の不易流行の理念とともに、私たちの今日があると信じています。

本年7月22日、秋篠宮皇嗣、同妃両殿下に厚真町を御視察いただきました。両殿下は時代を担う子どもたちとともに復興・森林再生を祈念してアカエゾマツをお手植えくださり、私たちに希望と勇気を与えてくださいました。私たちはこの震災でかけがえのないものをたくさん失いましたが、心配し応援してくださる多くの関係者との新たな出会いや、新たな「絆」「つながり」が生まれました。

これから先も困難に直面すると思いますが、「誰一人として取り残さない」を基本理念とする胆振東部地震からの復旧・復興にまい進するとともに、いただいたご縁とご恩を糧に「挑戦を諦めない町」として、未来創生と持続的発展に向けた歩みを町民の皆さまと共に一丸となって進めてまいります。

結びに、地震で犠牲となられた37名の御霊が永遠に安らかならんこととお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様のご平安とご健勝を心から祈念申し上げ、北海道胆振東部地震から5年のメッセージといたします。

令和5年9月6日

厚真町長 宮坂尚市朗